

市長記者会見記録

日時：2025年7月15日（火）14時00分～14時29分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《WORLD JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2025について》

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、まずは幹事社様から御質問よろしくお願いします。

【神奈川（幹事社）】 神奈川新聞ですけれども、来週末にワールドジャンプロープチャンピオンシップ2025がいよいよスタートすると思うんですけれども、改めまして、昨年のアジア選手権などを踏まえて、いよいよ日本初開催ということになりますけれども、市長が期待すること、また、このイベントが川崎にとって、日本にとってどういうふうになってほしいなど、期待することがありましたら教えてください。

【市長】 ありがとうございます。今おっしゃっていただきましたように、昨年はアジア大会をやって、かなり多くの国から、今、国数が申し上げられないんですが、来ていただきましたけれども、今年は日本で初めての世界大会をやるということで、たしか13か国だったような気がしますけれども、それぐらい多くの国々の若者たちを中心に集まって、私ども川崎市では「若者文化」と言っておりますけれども、こういったスポーツが川崎で世界大会が行われる、川崎から世界へと、あるいは今回で言えば世界から川崎へというような循環ができていくということを大変うれしく思っておりますし、これからは若者が挑戦できるまちということで、しっかりとこういった文化、スポーツを応援していきたいと思っております。

【神奈川（幹事社）】 市長自身も3日には何う予定ですけど、楽しみにしていること等がありますか。

【市長】 市内ゆかりのある選手も参加するということも聞いておりますし、やっぱりジャンプロープもそうですけど、こういった若者文化のメッカといいますか、聖地は川崎だということを国内外に示していく最大のチャンスだと思っておりますし、今回のジャンプロープのみならず、これまでもブレイキンですとか、そういったところをずっと応援してきましたので、横のつながりが非常に深いので、さらにこういった文化、スポーツが川崎から広がっていくことを期待したいなと思っております。

《参議院議員選挙について》

《外国人施策について》

【神奈川（幹事社）】 話は変わるんですけれども、参院選ですけれども、今、終盤戦に差しかかっておりますが、川崎市としては選挙ヘイトは許さないといった、改めてXやLINE

Eで投稿しましたがけれども、市長としては現在、結構外国人に対してのものも争点化されていますけれども、今回の参院選はどのように見られておりますか。

【市長】 まさに選挙期間中ですので、どこがポイントだとかというのは非常にコメントしにくいところですが、外国人関係ではある意味、各政党がいろいろ外国人施策のことについて、あるいは課題について議論されていることは、まさに私たちが国に対して言ってきたことは、国と自治体、あるいは企業がどういうふうに、例えば外国人材を受け入れるにしても、役割分担があるのか、誰がそれを負担すべきなのかということをしかりと議論していかなくちやいけない。それを省庁別ということよりも、しかりと横軸というか、縦割りじゃない取組を国でしかりと定めないと、やはりいろんな課題が出てくるよということは、指定都市市長会としても、ついこの間も私言ってきたところですし、まさにそのことが顕在化しているのではないかと思います。だからそういう意味で、しかりと冷静な議論がされて、どうやっていったらみんなが気持ちよく共生していける社会になるのかということをしかりと議論されるべきだと思っています。

【神奈川（幹事社）】 言いにくい部分もたくさんあると思うんですが、やっぱり地域社会の課題解決の議論がなされてないのかな、なんて思わざるを得ないのかなというところがあるんですが。

【市長】 私たち自治体が抱えている課題というのが、まさに生活者視点から国にも伝えてきているということです。それがされないことによって、ちゃんと知られてないことによる偏見だとか、あるいは差別を生むことになるのではないかとということをずっと懸念して伝えてきたというのがやや顕在化しているのではないかとはいっています。ですから、国も労働市場の開放というか、開拓ということだけでなく、物が来るわけではなく、人が日本に来て暮らしていく、働くということはどういうことなのかをしかり考えて、自治体でやるべきこと、国がやるべきことをしかりと整理した議論がまだちゃんとされていないということが今私たちが抱えている大きな課題だと思っていますので、恐らく選挙後になるんでしょうけれども、総理もその事務局となるようなところをつくと表明されていますので、そこに期待はしたいなとは思っております。

【神奈川（幹事社）】 繰り返しになってしまうんですが、改めて市として、選挙ヘイトは許さないというような投稿をしたことについては、何か……。

【市長】 あれは選挙のたびに出していることなので、特に今回に限ってということではありません。選挙のあるときに、毎回これまでもやってきていることですから、今回、ややテーマとして外国人のことについて議論が沸いておりますけれども、あれは私どもは通常やっていることですから、特に特別なことはありません。

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。

《WORLD JUMP ROPE CHAMPIONSHIPS 2025について》

【司会】 先ほどのジャンプロープの関係で所管から。

【市民文化局】 市民文化局市民スポーツ室でございます。先ほど、ジャンプロープの参加

国についての御質問がございましたけれども、今回の世界選手権につきましては、世界34の国と地域からいらっしゃるという形でございます。また、前段のアジア選手権の参加国数につきましては、10の国と地域からいらしているというところでございますので、よろしくお願いいたします。

【市長】 申し訳ございません。

《外国人施策について》

【t v k（幹事社）】 すみません、後ろから。幹事社のt v kです。よろしくお願いします。今のヘイトについて、国に動いてほしいというお声がありましたが、改めてになってしまいうんですけど……。

【市長】 ヘイトのことについては何も。

【t v k（幹事社）】 そうですか。外国人の施策について議論が進んでいる中で、国に対してもいろいろと議論を進めてほしいというお話だったと思うんですが。

【市長】 いわゆる外国籍の方の生活に対してはいろんな課題があるので、それについての議論は、~~政令~~指定都市市長会からも要望していますし、本市の課題としても国に対して要請しているので、そのことについては申し上げましたけれども、ヘイトのことではありません。

【t v k（幹事社）】 分かりました。それについて国にも要望を先月出されていると思います。改めて国にどういうスピード感で、どんな施策を求めているのかを教えてください。

【市長】 まず1つ求めているのは、基本法というものをしっかりとつくるべきではないかというお話、要望させていただいております。その中で、国と地方の仕事の役割分担というのがあるはずだと。役割分担に基づいて、財政措置はどういうふうにしていくのかということです。例えば、学校の教育についても、やはり多言語対応が必要になってきているわけですが、あるいは日本語教育というのをやっているわけですが、圧倒的に今の国の施策と現場は合っていないということの実情をしっかりと分かっていたいただきたいというのがあります。あまりの現実と国の考えている制度の違いというものに多分、各省庁分らないんだねということを言っていて、指定都市市長会でも相当な議論になっています。ですから、各省庁の人たちを一遍に集めて、川崎にでも見に来てほしいということを伝えています。その感覚がないと、なかなか政策が進まないでしょうと。だから、ここは国全体としてやるべきこと、あるいは、市町村でこれはやってほしいということをしかり切り分けて、実態に合わせた財政措置を組んでいかないといけないのではないかとことを言っています。

《市立小学校の蛍光灯照明器具等の焼損について》

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

もう一つ伺いたいことがあります。先週、川崎市立小学校で照明器具が老朽化によって焼損する事案がありました。その前にも1件、同様な事象が市立小学校で起きていると思うんですが、こうした老朽化への対応について、市としては何か対策される予定などがあつたら教えてください。また、市長としてこの事案についてどのように受け止めていらっしゃるのか。

【市長】 まず、このたびの事案については、全ての学校に注意喚起の周知を図るとともに、不具合があれば報告するよう各学校に指示していると教育委員会から聞いております。照明器具に関して言えば、本市は令和12年度までに全公共施設のLED化を目指しておりまして、今学校についても計画的に更新を進めておりますけれども、不具合があれば直ちに修正を行っているという状況でございます。

最近、一般的なことを言いますと、学校だけじゃなくて、建物が大体50年、60年とかになっているときに、市内の民間施設も含めてでありますけれども、電気設備の老朽化がかなり進んでいて、いろんな不具合が各所で起きているのは事実です。こういったものを、公共施設はもちろんのことでありますけれども、適切にメンテナンスしていかなければならないという課題感を持っております。

【tvk（幹事社）】 ありがとうございます。

《特別市について》

【司会】 では、幹事社様以外でお願いします。

【朝日】 朝日新聞です。よろしくお願いします。特別市構想のことについてお伺いしたいと思います。法制化の議論の機運を高めるのに、国政選挙は1つのチャンスになり得たと思いますけれども、今回の参院選を見てみると、選挙公報を見る限りでは、主要政党で特別市ということに言及しているところはありませんでした。この結果について、市長はどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 参議院というものが県ごとに選挙が行われているという選挙でもございますので、その中で争点化するのは非常に難しい選挙だとは思っております。一方で、この場でも繰り返し申し上げておりますけれども、次期地方制度調査会といったところにまず調査審議がなされるように訴えていくというのが、私どもとしては次の重要なステップだと思っております。そこでの議論を通じて、より機運を高め、その制度についてもさらに深度化させていかなければならないと思っております。

【朝日】 ありがとうございます。今の中に答えが一部入っているかもしれませんが、今後議論の機運を高めていくために、市長としてはどういうことをしていきたいと考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 まず、先月の指定都市を応援する国会議員の会の皆様が決議をさせていただいて、その後、今後、参議院選挙後に会を通じて、総理ですとか総務大臣への要請活動をやっただけだと聞いておりますので、そういった活動をしっかりとやっていただけるように私達も要請している立場ですから、主体的に動いていければなと思っております。まずは国会議員の皆様の理解と、諮問する立場である総理にしっかりとその情報というか、思いを伝えていきたいと思っております。

《参議院議員選挙について》

【朝日】 分かりました。ありがとうございます。

ちょっと別の質問をさせていただきます。参院選についてなんですけれども、これから終

盤戦に入っていきますが、今回の参院選で市長が特定の候補とか陣営の応援に駆けつけられたとか、今後、選挙期間中に駆けつけられる予定はございますでしょうか。

【市長】 いや、いずれもございません。

【朝日】 そうした姿勢を取られる理由は何でしょうか。

【市長】 市政をお預かりする者として、国政の1党とか、あるいは1候補者の応援に入るというのは、これまでもしてきませんでした。市政への影響を考えますと、なるべくそこはニュートラルの立場で行ったほうが市民の皆さんのためになるのではないかという思いで今まで控えてきておりますけれども、その姿勢に特に変更はございません。

【朝日】 分かりました。ありがとうございました。

《等々力緑地再編整備事業について》

【東京】 東京新聞です。等々力緑地の再編整備に関連して、伐採本数、具体的な検討がこの間示されましたけれども、それを受けて、結構多いなという印象も正直持っていて、今後見直しなどもされていくかと思うんですけれども、市長として、この990本、高木だけだということはどういうふうに受け止められているのか教えていただけますでしょうか。

【市長】 990本という一定の量が出たことは、本数が第1弾としてちゃんとお示しできたことはよかったと思います。一方で、減ることだけが強調されますが、約倍に当たる1,800本が新たに植樹をされるということで、結果的には緑が非常に増えるということですので、むしろ緑が増えることを私としてはアピールをしていきたいと思ひますし、伐採、伐採という言葉が並びますと、本当に緑がなくなっちゃうんじゃないかと懸念をされる方というのは、情報の出方としてはそう思うんですよね。ですから、そういう意味では、緑の量はむしろ増えるということをしかりとお伝えし、市民の皆さんに、これ、住民の皆さんのみならず、川崎市全市民にとっての大切な公園ですので、そのことをしかりとお伝えしていくことが大事だと思ひています。

【東京】 具体的な再編整備の見直しが今後出てくるのかなという中で、まだどこというのは言いづらい部分もあるのかなと思うんですけれども、先日、自由提案施設などもちよつと言及がされてきた中で、市民団体の皆さんなんかが、もうちよつと減らしてほしいと要望されてきた部分が対象になっているのかなという印象も受けたんですけれども、市民の方々の動きに応える必要も感じてということになるんでしょうか。すいません、分かりづらい……。

【市長】 これまでもそうですけど、例えば住民の皆さんの御懸念ですとか、あるいは御要望ということ、それから、やはりスポーツ施設が集中しておりますので、各スポーツ団体の皆さんからの御要望も非常に強いものがあります。期待というものがある、それにもしかりとお応えしていかなければならないということもありますので、そういったことはこれまでも丁寧を受け止めてきたと思ひますし、そういったお声にお応えできるように取り組んでいきたいと思ひますし、引き続き丁寧にやっていきたいと思ひております。

《路上演奏の登録制の試行実施について》

【東京】 ありがとうございます。すいません、ちょっと話がかわって、前回の会見でも産経さんから質問があった路上演奏の登録制の件ですけれども、今、選挙の関係もあるのか、今月に入って、実際路上演奏している演奏者が減っているんじゃないかという感覚があるということ、同僚なんかからも聞いているんですけれども、例えば市長は前回の会見では、運営のデメリットになることは考えていないというお話がありましたけれども、実際もし演奏者の方々がこういう制度をやりますという方針を市が示したことで、試行実施ですけれども、示したことで演奏者にとっての萎縮につながっているのかなという気もするのですが、音楽のまち川崎として、市長が今発信できることがあれば教えていただけますでしょうか。

【市長】 今、登録者はどのぐらいになりましたか。

【東京】 さっき聞いたら、200は超えているというのは聞きました。

【市長】 そうですね。だから、この前聞いていて、そんなにいるのと。逆に皆さん、報道とは裏腹にかなり好意的に捉えていただいていると私、局からも聞いていますし、音楽関係者の皆さんからも極めて好意的に捉えていただいております。なので、これまでも局からも説明させていただいておりますけれども、川崎の多様な音楽文化をしっかりとこれからも守っていくために、こういう登録制をさせていただいたので、今、選挙期間中ということもありましょうから、しっかりとこの半年間、試験的に運用をやっていくということで、課題なり何なりを見極めていきたいなと思っております。

【東京】 ありがとうございます。

《参議院議員選挙について》

【司会】 ほか、御質問はございますでしょうか。

【共同】 共同通信です。幾つか前の質問に戻ってしまうんですけれども、参院選で特定の党だったり候補者の方の応援に入られない理由として、市政への影響を鑑みてとおっしゃったと思うんですけれども、言わずもがなの部分もあると思うんですが、この影響というのはどういったことを想定されているのか教えていただければと思います。

【市長】 私、政治家であると同時に、やはり行政の長としての大切な役割があります。全ての市民を代表する行政の立場として、いろんな考え方の方がいらっしゃる。それを鑑みますと、政治家としての私という側面で、どちらかの政党を応援していくというのは要らぬ誤解を生むおそれもあるなと思いますし、また、与党だ野党だという形で、時の選挙結果というものは、私どもがやっていきたい政策にマイナス影響があってはならないなと思っております。これまでも川崎市の要望というのは、主要政党の皆さんにも、与党だとか野党だとかということ関係なく説明してきているということもありますし、そういったところは、一言で言えば、あまり影響のないようにという形で思っております。

【共同】 ありがとうございます。あと、またちょっと戻ってしまうんですけれども、先ほど、選挙のたびに川崎市だとXやLINEで、選挙ヘイトは許されないというような発信をされているということだったと思うんですけれども、そういった発信がなかなか国だった

りほかの自治体からは出てこないということについては、どのようにお感じになりますか。

【市長】 それは、これまでも申し上げてきましたが、他の自治体、例えば、同じような人権条例をというようなお話、御質問もいただきましたが、あくまでも私たち、この条例をつくったのも、地域の実情に沿った対応をしているということですので、ほかの都市ではそのような立法事実的なものに対する危機感というのは、現状とかとちょっと違うのではないかなとは思っております。

《外国人施策について》

【共同】 ありがとうございます。あと、趣旨の確認で恐縮なんですけれども、先ほど外国人受入れのお話の中で、実態に合わせた財政措置とおっしゃったと思うんですけれども、それは受け入れる上で、「役割分担」というお言葉がありましたけれども、どこがどういった負担をしていくのかという意味での財政措置ということによろしいですか。

【市長】 そうですね。例えば、先ほど日本語教育のお話をさせていただきましたけれども、これは一体誰の責任でやるのというのが、これまた明確ではないということです。ですから、しっかりと国は何をやり、そして自治体としては何をやる、仕事量に見合った財政措置は当然あってしかるべきですし、やはり政令指定都市のような大都市に外国人の方は、割合としては非常に偏って多いということもありますので、そういった意味では、指定都市市長会としては非常に危機感を持っているということがあります。現実と今の制度の乖離を早めには正しないと、様々なところで課題が出てくるのではないかなと思っていますし、そういったところで余計に不安を助長させてしまっているのではないかなという懸念は持っています。

【共同】 ありがとうございます。

《特別市について》

【司会】 ほか、御質問いかがでしょうか。

【時事】 時事通信社です。先ほど朝日さんから出ましたが、特別市なんですけれども、特別市のほうで、今後調査会に諮問されるように、議会とか議員さんとか諮問委員のメンバーの方とかに働きかけていくということで、市民というか、機運とか盛り上げ、私も5月に来て間もないんですけど、まだ川崎市さんがどういう意味で特別市を目指しているかというのが認知されてないというような感じが、調査はしてないんですけど、体感しているんですけれども、この夏からいろんな仕掛けをしていかれるようですけれども、狙いというか、多極分散型の国家を目指して、選択肢の一つとして、特別市で目指すということでしょうか。川崎市だけが特別市を目指すというイメージが1人走りしているような感じもしないでもないんですけれども。

【市長】 やはり指定都市市長会で目指しているのは、多様な大都市制度と言っていますが、私たちが訴えている中で、まだ制度化、法制化されていないというのが特別市制度のところですので、そこをちゃんと選択できるような法制度をしっかりとつくっていかなくちゃいけないと思っています。

具体的に言えば、3 政令指定都市圏内と言うと、今すぐにでも特別市を目指していきたいと市長レベルで言っているのは、横浜、川崎ということになって、相模原市さんにおかれては、法制化には賛成、移行については今すぐにでもという形ではないと聞いていますが、いずれにしても、指定都市全体として法制化を目指すべきだということには、いわゆる大阪市さんとか堺市さんだとかも含めて賛意を得ていますので、そういったことをちゃんと目指していかなくちゃいけないと思っています。だから、繰り返し言っていますが、今の人口減少社会では、もはや従来の2層制ではとても対応できるものではないと。この現実、もう皆さんお分かりいただいていると思うんですけど、それを法制化するといったときに、既存のいろんな枠組みが邪魔しているものがいっぱいあると思うんです。そこをやはり打破していけないといけないんじゃないかなと強い危機感を持っているということです。

【時事】 ありがとうございます。何度もすみません。

【司会】 ほか、御質問よろしいでしょうか。よろしければ。

では、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当